

「Face(夜)」1965年 三重県立美術館蔵

忘れえぬ「顔」の版画家

特集展示
生誕100周年

木下富雄



Kinoshita
Tomio

2023年10月11日(水)―2024年1月8日(月・祝) 三重県立美術館 MIE PREFECTURAL ART MUSEUM

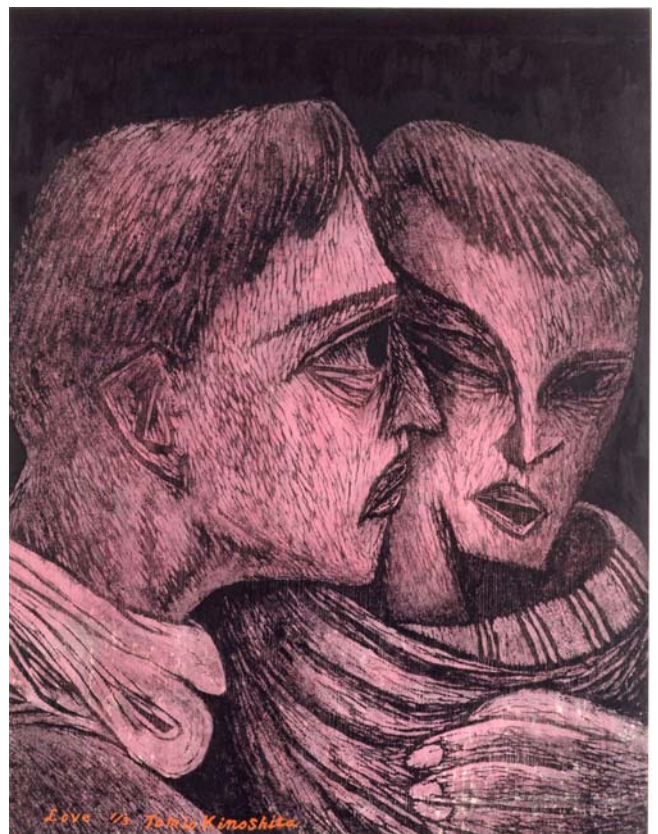
- 開館時間:午前9時30分―午後5時(入館は午後4時30分まで) ●休館日:毎週月曜日(ただし2024年1月8日は開館)、年末年始(2023年12月29日(金)―2024年1月3日(水))
- 主催:三重県立美術館 ●助成:公益財団法人花王芸術・科学財団、公益財団法人三重県立美術館協力会 ●会場:常設展示室第2-3室

展覧会について

現在の三重県四日市市出身の版画家、木下富雄きのした とみお (1923－2014) の生誕100周年を記念し、回顧展を開催します。木下富雄は1950年代に棟方志功むなかた しこう の木版画が国際的な評価を得たことに触発され、木版画制作を始めます。ほどなくして1958年に日本版画協会協会賞を受賞、1960年には国画賞を受賞しました。また、海外でも高い評価を受け、ノースウェスト国際版画展でシアトル美術館賞を受賞しています。

木下の作品では、突き彫りという技法で刻まれたぎざぎざの線によって生み出される人間の顔が特徴的です。四角、三角、円といった幾何学的な図形にまで還元された顔が画面一杯に表されます。一見プリミティブな様相を呈するそれらの顔には、同時代の社会問題や世相が反映され、人間に対する深い洞察がなされています。

本展では、木下富雄の貴重な初期作品から晩年作品まで展示し、その版画芸術の真髄に迫ります。



① 木下富雄 《Love》 1955年 個人蔵

展覧会のみどころ

—忘れえぬ「顔」の版画家・木下富雄

初期作品

木下富雄は版画を制作し始めた当初、ドイツ表現主義の木版画作品に強い影響を受け、身体の一部を変形させた人物像を荒々しい線で手がけました。大きな目や簡潔な線で表された口など、すでに写実的な表現から離れ、単純化に向かう過程が見られます。これらに加え、本展では、近年新たに発見された初期作品もご覧いただけます。

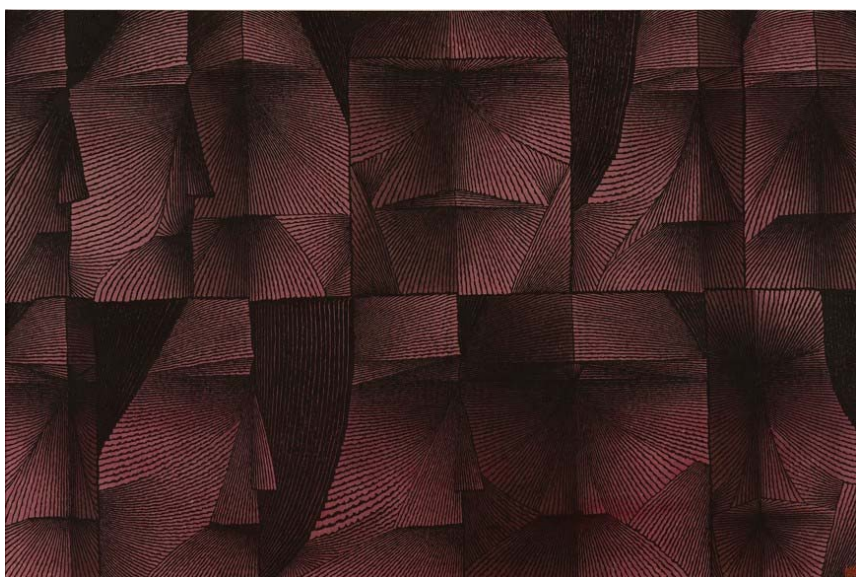
□四角い「顔」

1950年代末になると、人の顔を四角や円といった幾何学的な図形にまで単純化して表す独自のスタイルを確立し、多くの顔を生み出していきます。《Face(災害)》(画像②)は木下富雄の代表作の一つで、1960年に国画賞を受賞した作品です。この作品では伊勢湾台風の被害を受けた富田(三重県四日市市)の人々の顔が表されています。木下富雄は世相を反映した「顔」を作り出しました。

○丸い「顔」

一方で、《Face(夜)》(画像⑤)のようなどこか憎めないユーモラスな「顔」も手がけています。この作品では夜空に浮かぶまん丸な満月のような顔が画面に大きく表されています。実際に作家自身も「お月さん」と呼んで親しんでいたようです。線を幾重にも重ね、円という単純な形で表された素朴な見た目ながら、その顔は見る人の目を惹きつける不思議な魅力を持っています。

② 木下富雄 《Face(災害)》
1959年
三重県立美術館蔵



展覧会概要

特集展示 生誕100周年 木下富雄展

会期＝2023年10月11日(水)－2024年1月8日(月・祝)

開館時間＝午前9時30分－午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日＝月曜日(ただし2024年1月8日は開館)、年末年始[2023年12月29日(金)－2024年1月3日(水)]

主催＝三重県立美術館

助成＝公益財団法人 **花王 芸術・科学財団**、公益財団法人三重県立美術館協力会

会場＝常設展示室第2－3室

観覧料＝一般310(240)円／学生210(160)円／高校生以下無料

* ()内は20名以上の団体割引料金

* この料金で「美術館のコレクション」、柳原義達記念館もご覧いただけます。

* 「宮城県美術館所蔵 絵本原画の世界2022-23」展[－2023年12月10日(日)]をご観覧いただく場合は、企画展チケットをお買い求めください。

* 障害者手帳等(アプリ含む)をお持ちの方および付き添いの方1名は観覧無料。

* 教育活動の一環として県内学校(小・中・高・特別支援)および相当施設が来館する場合、引率者も観覧無料(要申請)。

* 毎月第3日曜の家庭の日(10月15日、11月19日、12月17日)は団体割引料金でご覧いただけます。

☆同時開催☆

「宮城県美術館所蔵 絵本原画の世界2022-23」展:2023年10月7日(土)－12月10日(日)

「Y² project 藤原康博」:2023年11月3日(金・祝)－2024年2月4日(日)



③ 木下富雄 《Face 合掌(2)》
1985年
個人蔵

関連イベント

講演会

10月14日(土)午後2時－(90分程度)

「木下富雄 その人と作品」

講師:小原喜夫(版画家・国画会会員)

場所:三重県立美術館講堂

定員150名／参加費無料

スライドトーク

12月2日(土)午後2時－(30分程度)

「忘れえぬ「顔」の版画家 木下富雄」

講師:坂本龍太(本展担当学芸員)

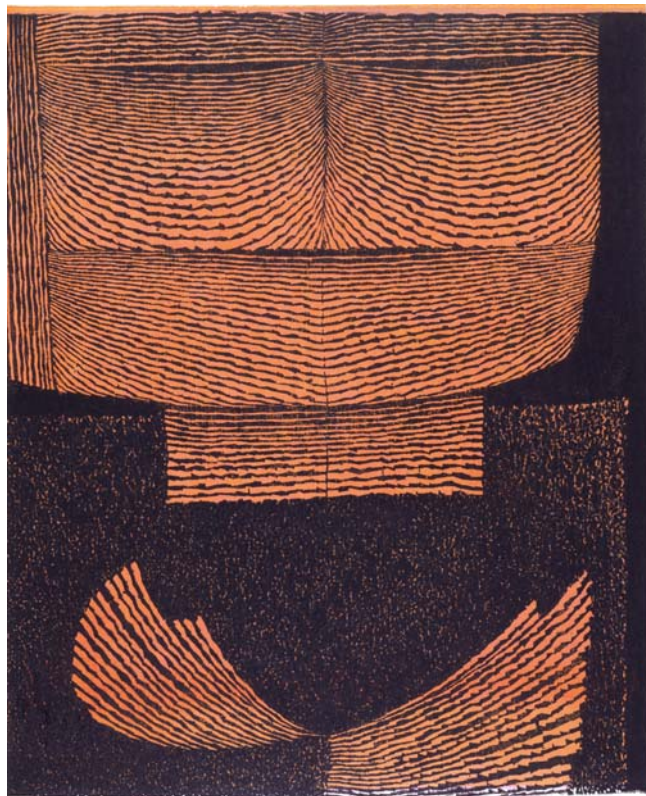
場所:三重県立美術館講堂

定員150名／参加費無料

[参加方法]

午後1時30分より開場します。時間になりましたら、直接講堂にお越しください。

※手話通訳、要約筆記、その他支援が必要な方は2週間前までにご相談ください。



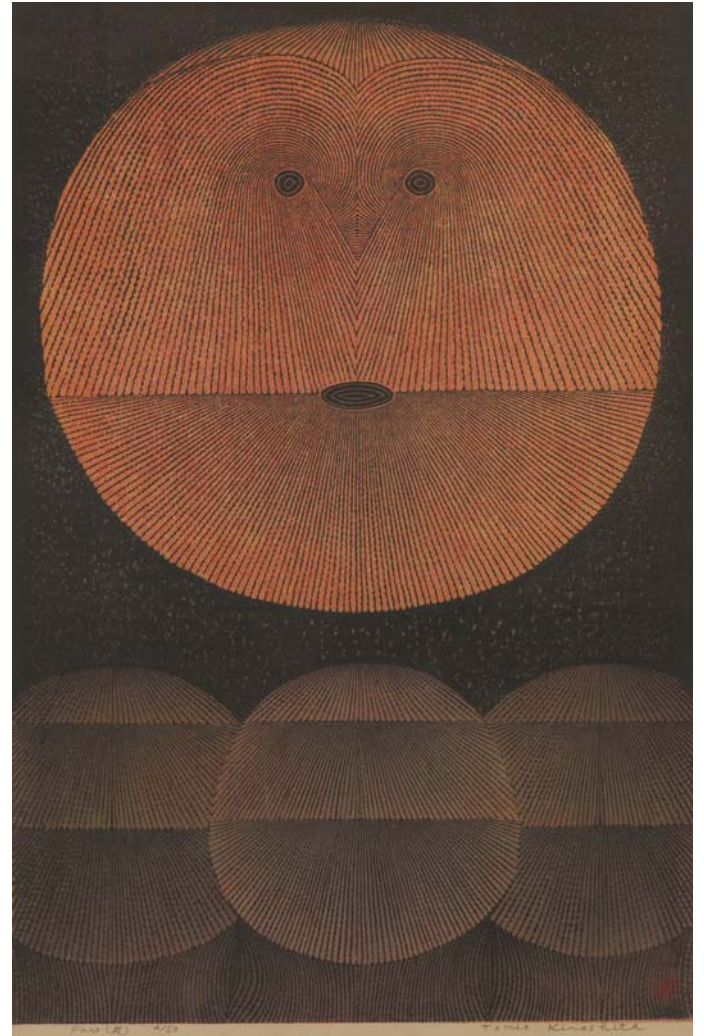
④ 木下富雄 《Face(童女)》
1960年
三重県立美術館蔵

展覧会紹介文

(紙面作成時にご自由にご使用ください。)

約100字

三重県四日市市出身の版画家、木下富雄(きのしたとみお・1923-2014)の生誕100周年記念展。貴重な初期作品から晩年の作品まで展観し、その作品の変遷をたどり、国内外で高い評価を得た木下の版画作品の魅力に迫ります。



⑤ 木下富雄 《Face(夜)》 1965年
三重県立美術館蔵

約150字

三重県四日市市出身の版画家、木下富雄(きのしたとみお・1923-2014)の生誕100周年記念展。木下富雄は突き彫りという技法で刻まれたぎざぎざの線で、四角、三角、円といった幾何学的な図形にまで還元された顔を表し、国内外で高い評価を得ました。本展では、貴重な初期作品から晩年作品まで展観し、木下の版画作品の魅力に迫ります。

広報用画像

下記の画像を広報用に提供します。

ご希望の方は、注意事項をお読みの上、下記連絡先に希望の画像番号をお知らせください。Eメールにて画像をお送りします。

- ① 木下富雄 《Love》 1955年 個人蔵
- ② 木下富雄 《Face(災害)》 1959年 三重県立美術館蔵
- ③ 木下富雄 《Face 合掌(2)》 1985年 個人蔵
- ④ 木下富雄 《Face(童女)》 1960年 三重県立美術館蔵
- ⑤ 木下富雄 《Face(夜)》 1965年 三重県立美術館蔵

■掲載にあたってのお願い

- ・上記のキャプション(作品名、所蔵者名)を各画像と一緒に掲載してください。
- ・作品画像への文字のせ、画像トリミングはご遠慮ください。
- ・掲載物を1部、または紙面データを美術館にお送りください。
- ・ウェブサイト上に掲載する場合はコピーガードをかけ、転載禁止の旨を明記してください。
- ・画像データの広報目的以外の使用はできません。

お問い合わせ

三重県立美術館 学芸普及課 坂本龍太 内藤由華

TEL:059-227-2100(代表) / FAX: 059-223-0570

Email:bijutsu2@pref.mie.lg.jp

〒514-0007 津市大谷町11

<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/>

Follow us on X (Twitter) @mie_kenbi